

出張報告書

令和1年7月18日

会派名

志誠会

会長

立崎 聡一 様

出張者氏名

近藤 憲治



下記のとおり出張したので報告します。

立崎 聡一



記

出張期間	令和1年7月12日（金） ～ 令和1年7月14日（日） （3日間）						
出張概要	①	月日	7月12日	市町村名	東京	会場	北海道事務所
		目的	北海道における企業誘致・北海道観光振興について				
		テーマ	全国ご当地ちゃんぼん連絡協議会の各種取り組みを参考に、SDGsと連動させることを検討する				
	②	月日	7月13日	市町村名	東京	会場	アサヒビール本社
		目的	全国ご当地ちゃんぼん連絡協議会 年次総会				
		テーマ	全国ご当地ちゃんぼん連絡協議会の各種取り組みを参考に、SDGsと連動させることを検討する				
	③	月日	7月14日	市町村名		会場	
		目的	移動日				
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

報告書

北海道東京事務所 観光・企業誘致課

令和元年7月12日 金曜日 15:00より

対応者 北海道東京事務所 観光・企業誘致課 課長 安彦 史郎

北海道東京事務所 観光・企業誘致課 主幹（企業誘致） 小林 美香

参加者 近藤憲治、立崎聡一

テーマ

企業誘致のこれから・北海道観光振興

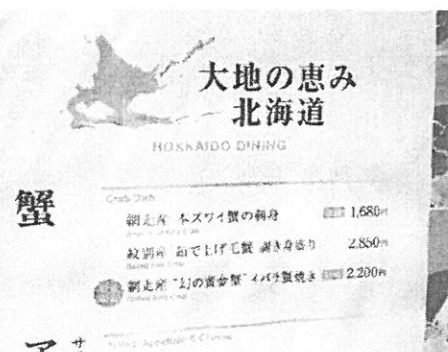
・企業誘致のこれから

企業誘致の現況は、まず企業に北海道進出させるメリットがあることを理解してもらうこと。これは、過去も未来も同じである。

今まで、災害の少ない北海道を詠っていたが、昨年の北海道胆振東部災害から企業向けに説明が変わったそうです。災害時のリスク分散。関東圏で災害が発生した場合においても、北海道に拠点の一部を置くことでリスク分散ができることを企業向けに発信している。

また、今日まで東京ビックサイトで開催されていた FOOMA JAPAN 2019 国際食品工業展に出向き、出品業者からの説明の中で「2次加工、3次加工用の機械の問い合わせや発注も徐々に増加している。少子高齢化が、加速化していく中で今後、働き手の不足が想定されることから、増々機械化が進んでいくことが、予想される。」話を受けたそうです。そこから導かれることは、企業の方も原料に近いところに生産拠点を移行していく必要性を考えているの也有ります。例として小清水町の山口油屋福太郎商店のめんべい。網走人としては、「ほがじゃ」の方がわかりやすいですが、お話しされていました。「ほがじゃ」は原料のジャガイモやホタテなど原料の近い場所に工場を。受け入れた小清水町の努力も称賛していました。

企業誘致は、進出する企業側と受け入れる側の様々な関係性が必要で、まだまだ厳しい状況にあり、道半ばであると考えられます。



・北海道観光振興

インバウンド「外国人観光客」の増加は、ここ数年の目玉であり、今後も期待できるものととらえていました。団体客ではなく個人客。観光地も秘境というか個人的に見つけたところを SNS 等で拡散して行く。そしてインバウンドの行動力には、驚いていました。もともと、時間の使い方や文化、物の見方の違い等はあるものの、道央圏から道南、次には、富良野などの道北圏に移動など精力的に移動すること、SNS を活用した自分だけの観光地巡りを上げていました。道内各空港からの 2 次交通の必要性和充実、重要性にも触れていました。

宿泊施設の充実にも言及。各都市のホテルは、勿論ですが、民泊にも触れてました。民泊は、地域の空き家対策、活性化に繋がり、地域を元気にさせるビタミン剤でありカンフル剤でなければなりません。網走の民泊施設にも触れてくれました。高台からの景色が素晴らしい Sea Side Stay は、自分たちの目で確認してみたい施設と言っていました。僕も実際に施設を見せていただきましたが、冬場、特に流氷が来る時期の景色は素晴らしい。青いオホーツクと白い流氷、流氷砕氷船オーロラが白い大地を切り開き、オホーツクブルーが顔をのぞかせ、空の青と海の青、雲の白と流氷の白、何度でも体験して頂きたいです。

民泊網走の宿は現役の学生が運営しているところに着目。東京農業大学オホーツクキャンパス大学院生の原口さん。二足の草鞋には、なってますが、空き家を利活用し民泊を営しながら学業も実践している点の評価は、高かったです。多くの学生たちは、卒業後網走を離れていることは、事実で、卒業後如何にして地元網走にとどまってもらうか。

報告書

全国ご当地ちゃんぽん連絡協議会 の年次総会 (C20 TOKYO SUMMIT)

開催日時 令和1年 7月13日 土曜日 15:00より

開催場所 アサヒビール株式会社 本社 会議室

参加者 近藤憲治、立崎聡一

全国ご当地ちゃんぽん連絡協議会 の年次総会 (C20 TOKYO SUMMIT) に参加しました。

ご当地ちゃんぽんでまちづくりに取り組む各団体の皆さんから大変多くの御提言、御意見を伺いました。その上で、全国ご当

地ちゃんぽん連絡協議会の各種取り組みを #SDGs (国連の持続可能な開発目標) と連動させる大会宣言を満場一致で採択させていただきました。

開会

主催者挨拶 (林田会長)

・今日はイベントとは別立てで会議を重視した。情報や悩みを共有し、この先の各地のご当地ちゃんぽんの盛り上げにつなげていきたい。

来賓あいさつ (日経新聞 渡辺デスク)

・食のまちおこしと言えば、富士宮の渡辺さんだったが、亡くなってしまったので、その想いを引継ぎ、伝えるべく参加した。今回の総会はSDGsやG20にかけて洒落っ気を持って開催している。こういう楽しさこそ渡辺さんが残したDNAだと思う。頑張ってください。

来賓あいさつ (アサヒビール 寺田さん)

・小浜ちゃんぽんをアサヒビールで応援している。今日はこのように会議室を提供させていただきました。今後ともよろしくお願いします。



活動報告（水俣チャンポン探究会 三牧さん）

・SDGsに絡めて、今後の活動を考えてみた。ゴール2「飢餓をゼロに」は子ども食堂を実施している団体と連携をして、水俣チャンポンを広げられるのではないかな。食材や場所の提供もできそうだな。ゴール3「すべての人に健康と福祉を」は厚生労働省が提唱する「スマートミール」の登録を提案したい。栄養評価をした上で、保健所を経由して申請するだけの簡単なものだが、既に水俣チャンポンは取得している。その上で、WHO推奨の健康メニュー認定へと進むのが良いのではないかな。次にゴール8の「働きがいも経済成長も」に関してはインバウンドが団体だけでなく、個人でも来るようになった時代にしかりとおもてなしをするためにメニューの多言語化や英語での接客の必要性を感じている。ゴール11の「住み続けられるまちづくりを」に関しては、子ども食堂やWCC、地元のイベントを通じて、わが街の自慢の存在としてちゃんぽんを定着させたい。また、熊本地震では計7回1200食の炊き出しを行い、被災者支援の面でも存在感を示せた。その上でゴール12「つくる責任、つかう責任」でフードロスの削減、地元の生産者との交流からのフェアトレードなどへと展開したい。また、イベントでの丼をパルプモールド化して環境負荷を抑制したい。

三牧さんのプレゼンに対しての質疑

Q、紙は丼として成立するのだろうか。特にイベント時は使いづらいのでは。また、紙素材でも防水のためにプラ素材を塗ってしまうと意味がない。

A、紙素材で防水に用いるのは「ろう」ではないか。今後の丼の素材は研究が必要だ。

Q、市場に行って生産者との交流という話があるが、直接農家から買うようなこともあるか。

A、規格外品は直接取引することで流通量を増やせる。

Q、インバウンドが水俣に来た時、何が一番人気か。逆に外国人が来て食べられなかったものはあるか。

A、ハラル対応は悩みだ。ツアーで来て添乗員がいればまだ良いが、個人の場合は食材をひとつずつ説明するのはなかなかつらい。人気メニューはもちろんちゃんぽん。ハラル系でとんこつを回避する人はうどんを食べている。

Q、メニューの多言語はちゃんぽん提供店に限定するとどこまで進んでいるか。

A、15軒ちゅう1件。行政サイドで整備してくれないかと県には依頼をしている。

活動報告（小浜ちゃんぽん愛好会、森田会長）

・島原半島においてもインバウンド（特に韓国から）が増えて、多言語対応の必要性を感じている。

・直近の動きとしては、林田番長が「マツコの知らない世界」にまた、小浜ちゃんぽんが「鶴瓶の家族に乾杯」に取り上げられ、浸透している手応えがある。地元長崎だけでなく、関東や遠くは東北から食べに来てくれる人も出てきた。

・昨年2月、韓国でちゃんぽんを伝えるイベントを有名な朴シェフと開催した。

・地元のイベントには最近はこちらぼんを出さずに、若い人たちが独自で始めるイベントのお手伝いをしている。

・マツコのテレビ効果は1年半続いた。林田番長も店の前にテントを立て、長蛇の列で末お客様にちゃんぼんのうんちくを話していたし、すごいときは店の中にも入ってちゃんぼんを伝導していた。

森田会長のプレゼンに対しての質疑応答

Q、マツコの番組を広告に換算すると約8,000万円の効果です。

A、そうですね。

Q、マツコのようにテレビ番組で火が付いて、視聴者が全国のご当地ちゃんぼんに対して「あ、うちのちゃんぼん食べたいな」と思われた時に、きちんと受け皿があることが大事。受け入れ態勢の整備も必要ですね。

A、はい。そう思います。

活動報告（長門ちゃんぼんをこれから普及したい 青村さん）

・13年前に「やきとり」でまちおこしを仕掛けた。今日は長門の飲食組合 組合長として参加した。過去にはロシアのモスクワに焼き鳥店を出す際に始動した事もある。長門にも「みそかつちゃんぼん」という料理がメニュー化されている店がある。未来に向けて何かを始めたい。

青村さんのプレゼンに対しての質疑応答

Q、長門のやきとりと言えば、ガーリックパウダーですね。長門にもちゃんぼんがあるそうですが、あんかけですか、そとも普通のスープ。中国地方はとろみのちゃんぼんがスタンダードですが、どこからどう変わるかも調べてみる必要があるのではないかと。

A、普通のスープです。

活動報告（鳥取カレーちゃんぼん連盟 吉田会長）

- ・2014年からあんかけちゃんぼんをまちおこしに活かしている。
- ・昨年、マツコの番組に出て「一生懸命頑張ってくれているんだね」という声を地元でいただくようになった。それ以前は「なんかやってる人がいるなー」ぐらいの反応だった。
- ・結果として、イベントに呼ばれる量も増えた。
- ・子ども食堂の話がありましたが、一人当たりの食材費も相当な金額になり、活動資金が厳しい。行政からの支援もあるが、十分ではなく切実な問題。連盟だけではやれないが、鳥取ではANAが機内食の余りのお菓子をくれたり、郵便局がお中元の余りを社協にくれたりと応援してくれる団体あるので、そことの連携が大事だ。
- ・鳥取ちゃんぼん連盟に加盟してくれる店を増やしたい。しかし、カレーがハードルにな

っている。ラーメン屋さんにちゃんぽんどうですか、と言っても、「カレーを出せない」となり、頓挫してしまう。

・インバウンドの来店も増えてきた。イタリア人の団体が30-40人で来たときはさすがに驚いた。

吉田会長のプレゼンに対する質疑応答

Q、子ども食堂の支援をライオンズやロータリーなど奉仕団体から得てはどうか。

A、今後可能性を探りたい。

活動報告（近江ちゃんぽん協会 山崎 前会長）

・SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」に関係して、彦根市が財政難で花火や祭りを続けられるなくなったときに企業と一緒に続ける手法を導き出し、花火大会は次期は変わったが継続されている。また、TMレボリューションの協力もあり、イベントとしても盛り上がっている。地元の企業が地元を支える、という基本が大事だ。

・SDGsのゴール3の「すべての人に健康と福祉を」、ゴール9「産業と技術革新の基盤を作ろう」、ゴール12「つくる責任、つかう責任」を関連して取り組むという視点で、最近興味があるのが「空き家問題」。田舎の空き家は使えない物件が多い、立地も売れるような場所ではない。そこを逆手にとって、介護リハビリと空き家を結びつけながら、さらに産業も起こしていくという方法を考えている。病院の入院患者でリハビリを要する人は、常に同じ環境などで飽きる。モチベーションも下がる。よく機能回復のリハビリで粘土を転がす作業があるが、それを小麦に代えればうどんに、そば粉にすればそばになる。ちゃんぽんだったらキャベツやネギを切るという作業になる。一連のリハビリを楽しみながら、なおかつ、場合に迫っては労働者として加工の担い手となる、という視点で行えないだろうか、また、その拠点として空き家を活用する、そんなことを考えている。

山崎元会長のプレゼンに対しての質疑応答

Q、祭りを残して、盛り上げる、コンサルもいますのでうまく活用できると良いですね。

A、なるほど。

活動報告（高根沢ちゃんぽん普及会 仁平さん）

・高根沢高校とローソンとで共同開発した「高根沢焼きちゃんぽん」が各地のローソンで計11万6000食売れた。それを契機に町からのバックアップが手厚くなった。

・WCC 尼崎大会と同じタイミングで高根沢の金看バンドが大阪城ホールで開かれる全国大会に出場した、それを応援するために壮行会で高根沢ちゃんぽんを振る舞うということも実施した。

・今年2月にはマップも作った。ところが、高根沢ちゃんぽんの運営主体である「元気あつぷ村公社」が廃業となってしまう、現在無職である。

仁平さんのプレゼンに対する質疑応答

Q、高根沢に御料牧場があるという話だが、もっと観光素材化すべきだ。全国にジンギスカン発祥の地があるが、もともと軍服用のウールが必要で、そのための綿羊の飼育が御料牧場で始まった、と見るのが妥当ではないか。現在、成田の三里塚の御料牧場の話を調べているが、ほとんど資料が出てこない。そして、ジンギスカン屋も2軒しかない。ぜひ、御料牧場をクローズアップしてください。

A、はい。

Q、自治体の枠を超えた共通のストーリー作りが大事だ。歴史とつながればより観光素材になる。

A、なるほど。

Q、地方創生もそうだが、最後は「自走」（自分で稼いで、自分で投資して、さらに稼ぐというサイクルに到達すること）が大事だ。

A、はい。

Q、東京には長崎のちゃんぽんが食べられる店のマップがあり、それを在京長崎県人会が作成した。平戸や小浜はどこで食べられるのか、わからない。心の中にある市境を取り払い、東京で各地のご当地ちゃんぽんが食べられる店の情報を発信すべき。

事務局答弁、今後の活動の中で実現を目指します。

活動報告（網走ちゃんぽん研究会 立崎さん）

- ・出前授業で子どもの世代から網走ちゃんぽんを認識する機会を設けている。
- ・地元のイベントで呼ばれないことは無い。

質疑応答は割愛。

SDGsにもとづく大会宣言を柴田事務局員から説明。

各ゴールに立脚したアクションプランについては、

- ・子ども食堂の部分
- ・生産者とのフェアトレードの部分

を加筆修正し、最終決定版として発表する旨を説明。

満場一致で拍手承認を得る。

閉会



令和元年

全国ご当地ちゃんぽん連絡協議会 総会

大会宣言

【序文】

ポスト東京2020。すべての国々が手を取り合い、持続可能な成長に向けて具体的な事業を進めていくであろう新たな10年を見据え、私たちはSDGsとそれぞれの地域の現状を踏まえ、ちゃんぽん文化と地域経済の発展、何よりお客様の笑顔を守り続けるために、大会宣言を行います。

【宣言文】

我々、全国ご当地ちゃんぽん連絡協議会は、ちゃんぽん麺のように長く持続可能で、コトコト煮込んだスープのように豊かで、具沢山で多様な未来を子どもたちに残すため、10のアクションプランを策定し、人類と麺類の豊かな未来を守ることを、ここに宣言します。

【アクションプラン】

- ①加盟店舗においては、お客様にお腹一杯になって帰っていただくため、味、ボリューム、おもてなしを追求するとともに、社会的弱者の課題解決に向けた取り組みを推進する。
- ②総合栄養バランス食であるちゃんぽんが人類の健康に貢献できる力を備えていることに理解を深め、厚生労働省が推進するスマートミールや、WHO（世界保健機関）による健康メニューの認定を受けることを目標に、国内外にPRを行っていく。
- ③自分と関係者の笑顔と、地域経済の循環に寄与するため、フェアトレードを推進するとともに、多言語での発信に努め、ご当地ちゃんぽんの価値とこだわりを、全てのお客様に伝えていく。
- ④住民の方々が楽しく住み暮らし、我が街の自慢としてちゃんぽんが語られるようなまちづくりを目指し、まちづくりや地域活性化イベントに関わっていく。
- ⑤安全安心と、素材の大切さ、海外の多様な価値観を理解し、フードロスの低減と廃棄物の削減に取り組み、環境と調和した店舗づくり、イベントづくり及び情報発信を目指す。
- ⑥二酸化炭素の排出抑制や使い捨てアイテムの削減とともに、災害発生時には被災地に寄り添い、ちゃんぽんを通じた適切な支援に取り組む。
- ⑦限られた海洋資源に負荷をかけない原材料を使い、海への流入が続くマイクロプラスチック対策として、店舗やイベントで使用するプラスチック製品を段階的に廃止する。
- ⑧各地域の多様性や文化、歴史を活かし、オンリーワンのちゃんぽんを育み、地域の誇り

として、ご当地ちゃんぽんを育てるため、地産地消と、地域の一次産業を活かしたメニュー作りを行う。

⑨平和で公正な社会実現のため、ちゃんぽんが持つ和合と共生の理念を世界へ伝え、国際社会の調和と発展を下支えする。

⑩他の食品業界及び団体のみならず、関係企業や自治体とも連携し、仲間づくりと異業種交流を進めながら、パートナーシップを強化する。